

令和5年度第2回海上の森運営協議会議事録

出席：委員はじめ19名（傍聴者2名、記者0名）

時間：10時00分から11時50分まで

1 あいさつ

あいち海上の森センター所長 藤野 繁春

2 協議事項等

（1）報告事項

ア 令和5年度海上の森保全活用事業の取組について（資料1）

イ 令和6年度海上の森保全活用事業計画について（資料2）

ウ 海上の森自然環境保全地域維持管理事業について（資料3）

（2）協議事項

海上の森保全活用計画2025の進捗管理について（資料4）

（3）その他

「(1) 報告事項 ア」について、事務局から説明

【座長】はい、ありがとうございます。では今の内容について、ご質問・ご意見いただければと思います。どこからでも。

【委員】よろしいですか。最後の「インフルエンサーによる情報発信」について。栄駅のやつはそこまで行かないと見れないと思うのですが、インフルエンサーのやつはどうやれば見れますか。YouTube か何かですか、それとも instagram だとか、何で見ればいいですか。

【事務局】インフルエンサーは、instagram 等で情報を流しているのです。

【委員】「海上の森」か何かで検索すれば出て来る感じですか。

【事務局】「海上の森」で検索すると、そのインフルエンサーの方の投稿が出てくると思います。見ていただければと。

【委員】わかりました。ありがとうございます。

【座長】他にいかがでしょうか。

【委員】一番初めにご説明いただいた「森林の維持管理」のところなのですが、職員の方々が巡視されているとか対応されているということで、実際に「間に合っている」といいますか、全部を見きれているとかあるいは「被害が多すぎて対応が大変」だとか、そういうお困りごとというか問題はありますか。

【事務局】写真にあるような状況というのはそんなに多々ないのですが、そういう状況があったときにはとりあえず今のところは職員等でも対応できるようにはなっています。

【委員】それなりの件数というか頻度、ということですか。

【事務局】そうですね。ですが、本当に隠れたところではたくさん枯れた木とかがあるものですから、そういうのは委託のほうで工事を発注してやっております。

【委員】特に散策路とか、人が使うようなところというのはなかなか雨のシーズンとか被害が多発して大変なのかなと思っていたのですが、そういったところは対応できる範囲内、ということですか。

【事務局】そうですね、台風の後とかは絶対に廻るようにはしていますけれど、職員が全員出払ってやらなきゃいけないようなことは、今のところ今年はなかったかなと。数人出ていけば対応できるくらいでした。

【委員】はい、ありがとうございます。

【座長】ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】先ほどお話があった「アズマプロジェクト」ですけれど、参加者は何人くらいですか。

【事務局】参加者は今現在全員で 44 名が参加されているのですけれど、各回に 10 名ほどが参加いただいております。

【委員】年間で何回かやってみえるんですか。

【事務局】月に 1 回ですね。

【事務局】アズマプロジェクトは本当に感心するといいますか、夏の暑いときでも来てもらって、荷物を運ぶだとか、砂利を運ぶだとか、木を伐るだとか、そういう作業を暑い中でもやってもらえるので非常にありがたくて感心しているくらいです。

【委員】どこに作っているのですか。

【事務局】すぐその駐車場の上の、見えないところですけど、今階段が左からあがって途中といいますか尾根のところ、窯の歴史館から左へ入った尾根のところですよ。

【事務局】里山暮らしコースの修了生を中心に行っているのですけれども、今年の修了生は皆さんメンバーに登録いただいておりますので、かなり皆さん盛り上がっていただいております。

【委員】この取組の内容というのは、県の事業のみ抜粋しているのか、幅広く NPO などの団体も含めて取組として整理されているのか、というところですね。どうですかね。

【事務局】今回のこの報告の中では県の事業だけです。

【委員】アズマプロジェクト、これも県の事業ですか。

【事務局】そうですね、はい。

【委員】すいませんでした。

【座長】里と森の教室は今年いかがでしたか。

【委員】今年ですか。最初の申込の時点では無茶苦茶多いですけど、先細りといいますか、休まれる方が出てきて。最後 15、6 人は出てこられたのですけれど、最初は 40 人くらいおまして、先細り状況で。なかなか、魅力があるのかないかわかりませんが、やればおもしろいと思うのですけれども。今までは（年に）9 回くらいやっていたのですけれども、昨年から 15 回にしたものですから、出やすいようにはしたんですね。あと午前中になるべく終わるようなシステムにしたのですけれど、そのぶん会員の負担が増えたのかなという部分はあったのですけれども。なんとか、今回の募集のときには「なるべく休まないように」というのを条件付きでできないかなとは思いますが。ちょっと先細り、後になるとやっぱり先細りになっている感じはあります。

【座長】夏の草取りも。

【委員】草取りなんかも、しっかりと出てきてもらっています。

【座長】結構大変ですね。はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】海上の森アカデミーで3つの事業を展開されていて、ずいぶん経っているわけですが、将来的にですね、コーディネーターの力を持った方を育成していただいて、自分たちで事業の展開といいますか安全対策も含めて企画・立案をして、自立していくというか、そういった研修みたいなものもだんだんと入れていくといいのかなと。将来的な展望としてとらえていました。それから交流会はうちの団体も出させていただいて、とても新鮮でよかったと。他団体さんをつながるといふ。いろんな自然体験活動をしている人が横でつながるのはとても良いということで、残念ながら Facebook の「いいね」は少し少ないなということで、今日日 instagram のほうが見る方多いのかもしれませんが、両輪としてどんどんインフルエンサーさんも活用しながら周知していくといいのかなと思いました。交流会も「どこで調べるんですか」とかの問合せも来て「Facebook 見てください」とか告知したんですけど、まだまだ周知ができていないのかなと思いますので、拡がるといいなというのが実感です。以上です。

【座長】はい、ありがとうございます。アカデミーは何年目でしたっけ。

【事務局】来年で9年目です。

【座長】来年で9なので、そろそろまたバージョンアップを考えてもいいのかなと思いますので、おっしゃっていただいたように、自立してやっていける、もう1ランク上のスキルを身に着けるようなものもできるといい、ということで、大変ありがたい意見かなと思います。ありがとうございます。

【委員】今のに関連して、応募者が大変多いのですけれども参加者がえらい少ないんですけど、これは定員の関係ですか。

【事務局】アカデミーですか。

【委員】アカデミー。

【事務局】そうですね、講師の方々がみれるのがだいたいこれくらいなのかな、ということで人数を絞ってさせていただいております。森女ですとチェーンソーとか結構危ないものですから、人数を絞って。

【委員】抽選か何かですか。どうやって絞っているのですか。

【事務局】職員で、申し込みの時の意気込みだとかを色々書いていただいておりますので、そこらへんを見ながら。

【委員】申込用紙に色々書いてもらっているんですね。

【座長】これ当初から「定員以上に申込がある」ということが大事、ということで考えてお
りまして、それがずっと続いているので、センター側としては大変嬉しいけど、参加
者側としては漏れちゃうので、あれですよ、2回目・3回目の応募の方は優先するとか
ね、何か少し工夫するといいかないと思いますけれど。ありがとうございます。他にいか
がでしょうか。

【委員】今その応募される方というのは、海上の森以外でも活動されている方ですか。例
えばチェーンソー使って。

【事務局】そうですね、全員が全員というわけではないのですが、何人かは地元の団
体のようなところとかで森林整備活動に携わっている方もいらっしゃいます。

【座長】それが1つの目的ですよ。海上の森だけじゃなくて他の地域で活動していただ
くことなので。そのへんの情報収集はやってるんですけど。修了生の追跡調査のよう
なものは。

【事務局】次の、次期計画を立てるときにはその辺りの調査もしていきたいと思います。

【座長】10年経つので、見直しの時にアンケート調査とかするといいですよ、修了生に。
はい、ありがとうございます。
他にいかがでしょうか。グリーンウッドワークの4回目の「ククサづくり」とあります
けれど、「ククサ」ってなんでしたっけ。

【事務局】コップです。木を伐りぬいてコップにしているので、結構これ人気があるんです。

【事務局】マグカップだよ。木製のマグカップを作るんです。

【座長】これは2日間で作る、ということですか。

【事務局】そうです、はい。

【座長】これもすごい人気でいいですね。はい、他はよろしいでしょうか。では、また何か
あればいつでもということで、次の「資料2」のほうの説明をお願いいたします。

「(1) 報告事項 イ」について、事務局から説明

【座長】はい、ありがとうございます。予算について、ご意見・ご質問あればよろしくお願
いします。

【委員】推進事業費の「ア 保全活動・維持管理費」のところが増えてますよね。それは主
に何が増えたんですかね。

【事務局】これは「危険木の除去等」のところが増えていますね。

【委員】それは委託で出すところですか。

【事務局】そうですね。

【座長】はい。他にいかがでしょうか。

【委員】よろしいですか。今の「危険木」のところですけど、増えたというのは何か特別な理由があるんですか。

【事務局】今年度は小規模治山事業の中で、そのような危険木を工事で伐採しておるんですけども、なかなか工事で発注しようとする発注できるまでの期間が結構かかってしまうんですね。実際、危険木の除去ってすぐ対応しなければいけなかったりするものですから、そういうときにその危険木だけをすぐ伐採できるように、他の費目で工事というよりも、役務費のほうで発注できるように、こちらのほうを増額して対応しております。

【委員】小規模治山事業とは別に、そういった予算をとっているということですか。

【事務局】はい。

【池竹委員】わかりました。

【座長】はい。他にいかがでしょうか。

【委員】今のご質問のところですけど、小規模治山事業のほうはだいぶ減額というか、そこがちょっと。

【事務局】今年度はですね、1600万円ついておるのですが、この中で委託が1000万ほどついておまして、遊歩道等を「どこが危ないのかな」というような調査をやっておりますので、それで来年度はかなり減額しておるように見えてしまいます。で、今年度行いました調査結果をもとに来年以降の整備とか進めていきますので、それほど今年と工事として減っているというものではないです。

【座長】はいどうぞ。

【委員】えっと、愛知万博20周年記念イベント、ということで、これは計画の段階での予算だと聞いたのですが、次年度に実施ということで、この間NPOの関係団体で皆さん集まったものですから、その人たちを活用したものをここで、みんなが集まって人を介してやれるようなイベントを仕組んでいただくと、NPOや団体との横の連絡が強くなるものですから、ぜひそういうものを企画の中にそれを入れてもらって、次年度にそれができるようなことをやってもらえると、もう少し皆さんの活動の幅が広がってくるかと思っておりますので、ぜひそういうのをよろしく願います。

【座長】はい。じゃあぜひそれは考えていただいて、よろしく願います。他にいかがでしょうか。よろしいですか。保全活用計画を作り直す、ということですね。ではこれまた皆さん色々ご意見いただければと思いますので、よろしく願います。では次に、今度は自然環境保全地域維持管理事業についてということで、自然環境課さんのほうから資料3の説明をお願いいたします。

「(1) 報告事項 ウ」について、事務局から説明

【座長】 はい、ありがとうございます。学生の皆さんには詳細な調査をやっていただいて、ありがとうございます。

では、どこからでもご意見、ご質問いただければと思います。

〇〇さん、大変、ありがとうございます。これ、個体全部を調べたってということですか。

【事務局】 そうですね、1つの個体でその日に咲いた花の部分に違う色でマークをつけて、開花期間を調べました。

【座長】 これって、どれくらい時間かかるというか、どういう調査なのですか。

【事務局】 そうですね、まずスミレサイシンの開花期は、去年はフェノロジー調査で表1にも示しているとおおり、雨が降った日以外は3月9日から27日くらいまでですね。

【座長】 ほぼ毎日この期間は来られて、1日どれくらい時間かかるのですか。

【事務局】 早いと30分くらいで、ちょっと時間がかかると1時間そこらで、新しく咲いた花と枯れた花にマークをつけて、その花が何日間咲いて、こっちは何日間咲いて枯れた、というのを記録しました。

【座長】 なるほど、すごいですね。この図1もすごい図だと思うんですけど。この分布域がこうやって出てきてる、というのは、その個体の場所は何かプロットしているということですか。

【事務局】 そうですね、調査に行って「このあたりまで咲いていた」という大まかな目安はありますが。

【座長】 はい。それで大変色んなことがわかった、ということありがとうございます。

【事務局】 今の話で1点補足なのですが、今話題にあがりました図1ですね、こちら緑と青色で示されている2020・2021は県の環境調査センターが調査を行っていた時期のデータが使われていると思うのですが、私も以前あちらにいたことがあるのですが、〇〇さんもおっしゃっていたように、実際にいた場所、特に淵になる部分を記録してそれを線で結んでいるのですが、この色が塗られている範囲まんべんなくいるわけではなくてですね、特に青と緑の時期は南側といいますか、この図で言うと下側ですね、そこが中心でした。あと下側の中央あたりですかね、そこが多くて上側が少なかったんですけども、この赤を見ますと、そこからだいたい上のほうに移動しているのがわかります。

【座長】 この「移動」っていう意味は、連作障害みたいな感じということですかね。続けては生えなくなる、というか。

【事務局】 そうですね。あとは「栄養塩」のあるほうに移動するという性質がある、という

報告もあるので、もしかしたら 2020 年・2021 年の分布域よりも栄養塩のある場所が北のほうに移動した結果、2023 年の分布域がこのようになったのではないかと。

【委員】スマレは「アリが種を移動させる」というのもありますし、そこらへんはどうですか。アリは関係ないですか。

【事務局】そうですね、アリによる種子散布はちょっと今年度の調査では「種を置いてみてアリが実際にどのくらい種を運ぶのか」という実験ができなかったのでも言えないのですが、ただ種子を観察したところ、スマレの種子に通常ついている「エライオソーム」、アリを惹きつけている脂肪酸なのですが、去年確認したスマレサイシンの個体ではエライオソームが目視では十分な量が確認できなかったため、アリによる種子散布についてもこれから調査する余地があると考えます。

【委員】全くなかった、ということですか。

【事務局】目視で見ただけでは、目立った量は確認されなかったですね。

【委員】ほとんどは閉鎖花で、同じ遺伝子でずれていく、みたいな話ですか。

【事務局】閉鎖花については、夏に観察に行った時に調べてみたのですが、海上の森のスマレサイシンでは閉鎖花が確認されませんでした。

【座長】はい。ちょっと素人にはついていけない話ですね。

【委員】まとめのところの 4. に書いてありますけれど、これまで夏に除草作業をやっていたけれどあまり効果がない、ということですが、これはどういうことでしょうか。もしそうであれば除草の時期を変えなきゃいけないですよ。

【事務局】そうですね、まずこの除草作業を行う目的なのですが、スマレサイシンは地面を這うように生長するため、まわりの植物の背が高いと日当たりが悪くなるんですね。だからスマレサイシンの株がある時期に背の高い植物を草刈りしてあげることによって、スマレサイシンにも日が当たりやすくなる、そうしたほうがスマレサイシンの生長にも良いのではないかと、という考えの下です。7 月、8 月ですとスマレサイシンの株がないので、その時期に草刈りしてもあんまり効果がないのでは、というまとめになります。

【座長】株があるのはいつまでですか。

【事務局】株があるのは、去年はおおむね 5 月、6 月くらいでしたね。

【事務局】これも一応補足させていただきますと、ちょっと情報の行き違いがあって申し訳ないですが、実際にここ数年で除草作業を行っているのは秋、9 月から 10 月くらいです。意図としては、その時期には地上部にスマレサイシンの株はないのですが、夏場は他の草本が生い茂りますのでそれを秋のうちに除去して、春にスマレサイシンが生育できるように、という発想といいますかやっておったのですが、ただ前回の協議会の際にもお話をいただいたかとは思いますが、今回の資料で言いますと 12 ページですね、これまでの除草区と対照区の調査結果を比較していただきますと、正直、必

ずしも除草区のほうが開花割合が高いというわけでもない、というのがこれまでの結果として見てとれるかと思えます。そういったこれまでの知見も含めて、〇〇先生からもご助言をいただいたところです。

【座長】 はい。よろしいですか。他にいかがでしょうか。

【委員】 ちょっと戻りまして「湿地の保全」のところなのですけれど、今年の12月の活動で堆積している表層有機物を除去されていますが、その意図といいますか、表土を除去することによってどういうふうに湿地の保全につながるのですか。

【事務局】 要はこの湿地、なぜこの活動をしているのかといいますと、植生遷移が進行しているということで、周りの樹林化が進んで迫ってきているというのが一番根本ではあるのですけれど、湿地の中に関して言いますと、どんどん有機物が堆積していて、草本とか木本が生えれる状態になってきてしまっている。湧水湿地は基本的に貧栄養ですから、本来の環境からは離れてしまっているというのがあるので、たまっている表土を除去してやるということと、周りの木も除去しているのですけれど、それによって湧水の量が増えているというのもわかっていますので。実際に数年前からこの活動をやっているのですけれど、過去にはぎ取ったところではトウカイコモウセンゴケだったり、ミミカキグサの類ですね、非常に小さくてグレーチングのところからは見えないと思うのですけれど、それらがかなり再生してきているのが確認できていますので、これに関しては続けていきたいと考えています。

【委員】 剥がすことで、モウセンゴケが生えるような砂地状というか、貧栄養な状態にするということですか。

【事務局】 そうですね。

【委員】 除去が必要、ということは、これまでは湿地の縮小が問題にならなかったのは、植物を使うだとか、人がつかえることによって、それをとっていた、ということを模式的に、人工的に再現している、というような位置づけになるんですかね。

【事務局】 そもそも、昔の状況に関してはおそらく湿地の中でというより周りの里山の利用というところが一番大きいのかなと思います。部分的に再現ではないですが、かつては有機物が溜まるような状況ではなかったものですから、そういう状況に戻していくという形です。

【委員】 はい。ありがとうございます。

【座長】 はい、ありがとうございます。湿地、里山の利用の仕方が変わって、生態系が変わっていく。そういうことをどう守るかということが大きなテーマで、ここはたまたま県が指定してくださったから予算と人手をかけて剥ぎ取りとかをやっているのです、他のところはどんどん遷移が進んで消滅していつている、ということだと思います。時々山崩れとかがあって湿地ができるようなサイクルが自然だとは思いますが、保全活用計画の見直しの中でもそれをどう評価するのか、そのあたりもみんなで議論するといいいのかなと思いますし、これをどこまでいつまでやるのか、という話も当然出てくるので、

これを行っている意義というものをもう一度確認できたらいいのかなと思いますので。はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。〇〇さんは今何年生ですか。

【事務局】 今4年生です。

【座長】 学部の4年生。

【事務局】 はい。

【座長】 立派な仕事をしていただいて。修士に行かれるんですか。

【事務局】 いえ、もう就職します。

【座長】 ではぜひ後輩に引き継いでいただいて。じゃあ、よろしいですか。はい、ありがとうございました。

では次の議題で、「海上の森保全活用計画2025の進捗管理」ということで、資料4の説明をお願いします。

「(2) 協議事項 ア」について、事務局から説明

【座長】 ありがとうございます。では、どこからでもご質問、ご意見よろしくをお願いします。ムササビの調査の結果はどうだったんですかね。ざっと教えていただければ。

【事務局】 委託で行ったものなのですけれども、全域を調査するわけではなくて、この施設のあたりのところに全部で17個巣箱があるものですから、そこで目視で見たり、カメラを設置したりということで、調査した結果ですと6頭くらいはいるのかな、というような調査結果が得られております。前回、5年前にやったときも5頭くらいは、という話でしたので、それほど変わってはいないのかなという状況ですね。

【座長】 〇〇さん、何かコメントとかあれば。

【委員】 樹木の伐採についてなのですけれども、一昨年オオタカの営巣している樹木を伐採したという事例が(他所で)ありまして、それは業者さんが伐採したのですけれども、業者さんもオオタカが営巣しているというのはわからないんですよ。頼まれてやっているものですから、鳥類だとかそういったものに対する知識がないということがありますので。樹木の伐採については、営巣時期を外すとかですね、よく調査をしてから伐採する、ということで鳥類に対する影響をなるべく少なくして伐採していただきたいと思うのですけれども。愛知県にもそのときはお話をしまして、ちょっとした簡単なパンフレットを作ってもらったりしておりますので、そこらへんはよろしくお願ひしたいと思ひます。

【座長】 そのあたりいかがですか。対応は。

【事務局】 そうですね、木を伐採する際には、伐採する木にテープ巻いたりしておりますの

で、うちのほうも鳥類が営巣している場所とか確認して、営巣している木は除くようなことをしていきたいと思っております。

【座長】ではそこは注意していただくということで、よろしくをお願いします。他にいかがでしょうか。

【委員】前の会議でも話しましたが、やっぱり業者さんに「ここをこうしてください」ということで樹木に印つけることをやってもらっているんですけど、やっぱり「それなりにわかる人に1回みてもらおう」というのが絶対必要だと思うんです。そういうことは全国的にたくさんあるので、やっぱり必要だと思います。ちょっとしたことで気づいたり気づかなかったりするので、そこらへんはぜひお願いしたいと思います。

【座長】はい、ではそういうのをぜひ仕組みとしてね、やっていただけるように。他にいかがでしょうか。「ふれあいの里」で企業さんに農地を貸与するのがあって、その横に「イノシシの影響で収穫がない」というのもあるんですが、これってどういう感じが説明をちょっとお願いします。

【事務局】これ「収穫がない田畑があった」ということなんですけれども、里と森の教室等で使った、海上の森の会さんが参加者さんと作っていただいた田んぼのところとかなんですけれども、そのあたりにイノシシが入って走り回っちゃうようなことがありました。

【座長】田んぼに入ったんですか。

【事務局】その田んぼのお米が獲れなかった、ということが発生しております。

【座長】なるほど。イノシシの柵はどんな感じですか。

【委員】イノシシの柵は全域やったんですけど、イノシシも賢いものですから、結構くぐって入ったりするんですね。川沿い、沢沿いにやってあるものだから、それが抜けるとちょっとした穴から入っちゃうことが多くて、センターにもやってもらっておるんですけども、なかなか距離があるものですから全部やり切れないところもあるのかなと。その都度直すことはしておるんですけども、去年はほとんど獲れないこともありまして。

【事務局】メッシュフェンスのほうもかなり購入しましたので、補強してやっていきたいと思えます。

【座長】ここは捕獲するわけにいかないですもんね。普通だったら捕獲するんですけど。

【委員】檻が置いてはあるわね。

【事務局】置いてはありますね、わからないところに。

【座長】あ、そうなんです。なるほど。これはもう柵をするしかない、ということで。企業の方たちは野菜をやってみえるのかな。□□とか。

【事務局】今はイモだけですね。ジャガイモ、サツマイモを△△さんがやってみえます。◇◇さんはいろんなものを作ってみえますね。

【座長】社員の方がみえて作られているんですか。

【事務局】◇◇さんは自分たちでやっているんですけど、△△さんは常時来られるわけではないものですから森の会さんのほうに維持管理をお願いしています。

【座長】ああ、そうなんですね。□□さんはどういう。

【事務局】□□さんは独自で、自分たちが結構な頻度で来て、自分たち結構でやっています。

【座長】そうなんですね。野菜を作っているんですか。

【事務局】そうですね。

【座長】はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
○○委員、いかがですか。

【委員】今年度は日本各地でツキノワグマが結構出てきたということで、確かこのエリアも、瀬戸市内も結構あちこちで確認されておりまして、たぶんですけれど、海上の森も物見山の頂上付近のところで目撃の情報がある、という情報がちらっと出たのですけれども、イノシシもそうなんですけれど、ニホンザルだとかシカだとか、そういったものの被害だとか、そういった情報は大丈夫ですかね、こちらのほうは。

【事務局】クマにつきましては、昨年5月くらいに2回ほど散策者の方が「物見山山頂付近で見たよ」ということで情報いただいております、注意喚起のほうをしております。それ以降特にないので、今のところは大丈夫かなと。また春になって動き出したときに来なきゃいいな、というところですね。あと、シカに関しては海上の森の中に関しても見かけることもちょくちょくありますので、生息はしているのかなと思うのですけれども、特にそれで被害が出ている、田畑で被害が出ているということは聞いていないですね、今のところ。森林のほうも、食害をひどく受けているということも特に聞いていないので。

【座長】サルはいる？

【事務局】群れでは特に見ていないです。はぐれのやつが1頭とか、去年こころへんにいたのは見ていますけど、群れではないので、それほどひどい被害は受けていないかと思えます。

【座長】あれですか、市内のほうでは結構被害がありますか。

【委員】まあどこまでいってもですけど、「黒くて大きな動物」ということなんで、確認に行くとカモシカであったりイノシシであったり、ということで、確認できておるのは定点カメラの直接映り込んでいるとか、そういうものですけども。あちこちで、猿投山も三国山もそうなんですけれど、住んではいらっしゃるので、あちこち出歩かれるので

出て来るのかなと。

【座長】 そうか。じゃあ熊鈴を持って歩いたほうが安全ですかね、海上の森でも。

【委員】 そのほうが安全だと思います。

【座長】 それはちょっと情報発信したほうがいいですね。あと、シカがいると今度新植したときにね、苗木を食べられちゃうもんで、今間伐だけなんでいいんですけど、これから皆伐して新植しようとするときに厳しいですよ。広葉樹も株から萌芽するのを全部食べちゃうので、育たなくなっちゃうのでちょっと心配ですね。カモシカもいる？

【事務局】 カモシカもはい、います。

【座長】 はい。他にいかがでしょうか。よろしいですか。

ではいったん議事はここで終わります。最後傍聴の方に5分間意見表明の機会を与えるということになっておりますので。それに対してお答えしたり議論したりすることはしない、ということですので、お2人で5分間で、意見あればいただけると。

—傍聴人2名からの発言—

【座長】 はい、ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。では最後になりましたけれど、〇〇さんのほうから。

【委員】 海上の森フォーラムですけど、ここでやりました報告書ですので、また見ていただきたいと思います。去年はシンポジウムのほうは、山形のほうから里山保全活動ですね、学生さんたちと一緒にやっておられる永幡さんにご講演をいただいております。それから海上の森での研究のほうもですね、去年に引き続いて2回目になりますけど、林さんのほうからですね、報告いただいておりますので、読んでいただきたいと思います。あと、活動団体の顕彰事業ということでですね、今回みのむシックスさんに打診をして参加いただきましたので、表彰させていただいております。また来年度もですね、11月24日の日曜日ですけれども、同じウイנקあいちでですね、一応日にちだけ決まっております。それと研究発表はですね、今日お話ありました名古屋工業大学の〇〇さんのほうにですね、カザグルマの調査の報告をしていただきますので、詳しい内容はまた聞けると思いますので、ぜひご参加をお願いしたいです。△△さんのほうにもお声がけさせていただいたんですが、卒業だということちょっと難しい、というお話で、今回はちょっと残念ですが。〇〇さんのほうには報告させていただきますので、ぜひ出席いただきたいと思います。それから特別講演のほうもある程度決まっております、土のほうの研究をされている森林総合研究所の〇〇さんという方なのですが、そちらの方に今度土をテーマにしてですね、「土から考える暮らしと自然の持続性」というテーマですね、ご講演いただくことになっておりますので、11月24日ですね、日曜日ですので、ぜひよろしく願いいたします。以上です。

【座長】 どうもありがとうございました。ではこれで議事のほうは終わりにしまして、お返ししたいと思います。ありがとうございました。

【事務局】 はい、ありがとうございました。〇〇座長、委員の皆様、傍聴人の皆様、誠にありがとうございました。これで令和5年度第2回海上の森運営協議会のほうを終了とさせていただきます。次回の会議ですけれども、本年の9月頃をまた予定しております。よろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。